

2010年3月期 決算説明会



株式会社エフピコ
2010年 5月12日

本説明会のプレゼンテーションおよび配布資料に掲載する情報につきまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本説明会の配布資料に掲載する情報は、無断での引用や転載、複製は禁じられております。

= 目次 =

◆ 実績報告	経理財務本部長	瀧崎 俊男	3
◆ 業績予想			9
◆ 業績状況報告	代表取締役会長	小松 安弘	15
◆ 企業基盤の強化	代表取締役社長	佐藤 守正	27
◆ 添付資料			39

実績報告

2010年3月期

経理財務本部長
瀧崎 俊男

販売状況 (2010年3月期)

計画は、'09年11月5日発表の予想

単位:百万円	09/3月期		10/3月期		増減	前年比	数量 伸長率	10/3月期		
	実績	構成比	実績	構成比				計画	構成比	達成率
ト レ ー 容 器	28,748	22.4	26,967	21.6	1,781	93.8%	102.0%	28,755	22.8	93.8%
弁 当 容 器	67,814	52.9	68,714	55.0	900	101.3%	106.3%	69,270	55.0	99.2%
そ の 他 製 品	1,981	1.5	1,737	1.4	244	87.7%		1,390	1.1	125.0%
【 製 品 】	98,544	76.8	97,419	78.0	1,125	98.9%	104.4%	99,415	78.9	98.0%
包 装 資 材	17,874	13.9	16,961	13.6	912	94.9%		16,700	13.3	101.6%
そ の 他 商 品	11,824	9.2	10,537	8.4	1,287	89.1%		9,885	7.8	106.6%
【 商 品 】	29,699	23.2	27,499	22.0	2,200	92.6%		26,585	21.1	103.4%
【 売 上 高 】	128,244	100.0	124,918	100.0	3,325	97.4%		126,000	100.0	99.1%

製品

- ・出荷枚数 : 前年比104.4%伸長
- ・製品価格 : 前Q4の原材料価格の値下りに伴い、'09/3より値下げ実施
- ・トレー容器 : 超軽量化ロースタックトレーのFLBシリーズが好調
- ・弁当容器 : 軽量化製品の刺身・寿司容器が好調
PET素材製品の新製品の引き合いも順調
農産品の容器マーケットへの進出による増加

商品

- ・包装資材等の推奨商品への絞込みを実施
- ・不採算取引の見直しを実施
- ・前期実績のその他商品には、
販売用美術骨董品の売上1,333百万円を含む

* ご参考: 前期 販売用美術骨董品除く *

そ の 他 商 品	10,491	10,537	46	100.4%	9,885	106.6%
【 商 品 】	28,366	27,499	866	96.9%	26,585	103.4%
【 売 上 高 】	126,910	124,918	1,991	98.4%	126,000	99.1%

決算概要 (2010年3月期)



計画は、'09年11月5日発表の予想

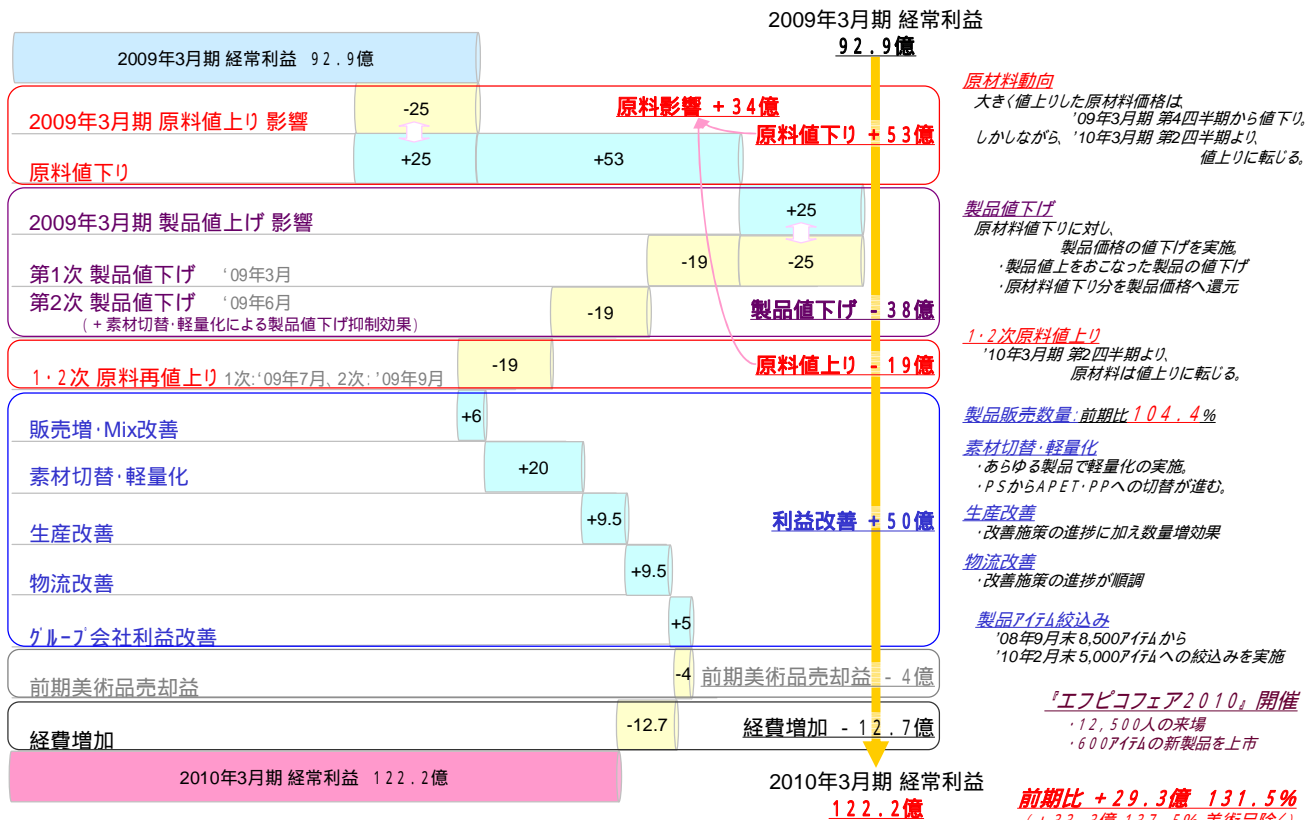
単位: 百万円	09/3月期		10/3月期		増減	前年比	10/3月期		
	実績	構成比	実績	構成比			計画	構成比	達成率
【純売上高】	128,244	100.0	124,918	100.0	3,325	97.4%	126,000	100.0	99.1%
製品	98,544	76.8	97,419	78.0	1,125	98.9%	99,415	78.9	98.0%
商品	29,699	23.2	27,499	22.0	2,200	92.6%	26,585	21.1	103.4%
【営業利益】	9,190	7.2	11,892	9.5	2,702	129.4%	11,800	9.4	100.8%
【経常利益】	9,298	7.3	12,220	9.8	2,922	131.4%	12,000	9.5	101.8%
【税引前利益】	8,832	6.9	11,953	9.6	3,121	135.3%	11,730	9.3	101.9%
【当期利益】	5,302	4.1	7,114	5.7	1,812	134.2%	6,950	5.5	102.4%

- ・合理化 : 製品アイテムの絞込み、生産および物流を始めとしたグループ全体でのコスト改善への取り組み
超ロースタックトレーをはじめとした全製品の軽量化および素材切替による原材料費の削減
- ・原料面 : 前Q4から値下りした原材料価格は、当Q2より再度値上りに転じ、原材料コストの増加
- ・販売面 : '09年6月に太洋興業(株)より包材部門を譲受し、農産物の容器・フィルムのマーケットへ本格的に進出
'09年10月に食品加工メーカーを主な販売先にもつ日本パール容器(株)より食品容器事業を譲受し販売強化を図る
- ・生産面 : 生産性および品質の向上に取り組み、需要拡大に対応した生産能力の拡大と生産拠点の最適化
- ・物流面 : 需要に即した供給体制の構築、在庫水準の適正化、横持ち・保管にかかわるコストの低減

経常利益増減要因 (2010年3月期)



単位: 億円



設備投資・研究開発費 (2010年3月期)



計画は、'09年11月5日発表の予想

	09/3月期		10/3月期		10/3月期	
	実績	実績	増減	前年比	計画	構成比
設備投資	13,007	10,071	2,935	77.4%	12,590	80.0%
有形固定資産	12,166	9,658	2,507	79.4%	12,020	80.4%
(内、自己調達)	8,249	7,806	442	94.6%	9,900	78.9%
内、土地	1,485	1,416	68		1,420	
無形固定資産	841	413	427	49.1%	570	72.5%
減価償却費	8,467	8,461	5	99.9%	8,660	97.7%
研究開発費	965	1,035	70	107.3%	1,000	103.6%

設備投資には、リース調達を含む投資額を表示しております。

主な設備投資

新中部ピッキングセンター・リサイクル工場用地	1,001	百万円
新福山ピッキングセンター	889	(投資総額 1,800百万円)
金型	1,512	
回収容器選別工場	661	
PETメカニカルリサイクルプラント	292	(投資総額 1,320百万円)
IT投資	355	
M & A (太洋興業株、日本パール容器株)	861	

FP Corporation - 7 -

キャッシュ・フロー (2010年3月期)



	09/3月期		10/3月期	
	実績	実績	実績	実績
営業活動による C/F	14,568		16,369	
投資活動による C/F	5,725		9,701	
フリー・キャッシュフロー	8,843		6,668	
財務活動による C/F	960		11,673	
現金及び現金同等物の増減額	7,883		5,005	
現金及び現金同等物の期末残高	16,108		11,102	

営業活動によるキャッシュフロー

税金等調整前当期純利益	11,953	百万円
減価償却費	8,461	
売上債権の増加	1,416	
たな卸資産の減少	880	
法人税等の支払	4,785	

投資活動によるキャッシュフロー

有形固定資産の取得	7,565
事業譲受による支出	1,262
長期貸付金の増加	584

財務活動によるキャッシュフロー

借入金の純減少額	6,412	百万円
リース債務の返済	3,340	
配当金の支払額	1,940	

FP Corporation - 8 -

業績予想

2011年3月期

販売計画 (2011年3月期)

単位:百万円	10/3月期		11/3月期		増減	前年比	数量 伸長率	数量		
	実績	構成比	計画	構成比				中間期計画	構成比	前年比
ト レ ー 容 器	26,967	21.6	28,100	20.5	+ 1,132	104.2%	105.0%	14,100	21.2	103.8%
弁 当 容 器	68,714	55.0	72,400	52.8	+ 3,685	105.4%		35,900	54.1	104.0%
そ の 他 製 品	1,737	1.4	2,100	1.5	+ 362	120.8%		1,000	1.5	123.2%
【 製 品 】	97,419	78.0	102,600	74.9	+ 5,180	105.3%		51,000	76.8	104.2%
包 装 資 材	16,961	13.6	23,800	17.4	+ 6,838	140.3%		10,100	15.2	114.8%
そ の 他 商 品	10,537	8.4	10,600	7.7	+ 62	100.6%		5,300	8.0	100.5%
【 商 品 】	27,499	22.0	34,400	25.1	+ 6,900	125.1%		15,400	23.2	109.4%
【 売 上 高 】	124,918	100.0	137,000	100.0	+ 12,081	109.7%		66,400	100.0	105.4%

製品

- ・出荷枚数 前年比105%伸長
- ・軽量化、素材切替、新素材開発、機能開発などにより、既存マーケットでのシェア拡大
- ・用途開発によるマーケット拡大

商品

- ・グループの物流ネットワークを最大限に生かし、取扱量の増加

決算計画概要 (2011年3月期)



	10/3月期		11/3月期				中間期計画	構成比	前年比
	実績	構成比	計画	構成比	増減	前年比			
【純売上高】	124,918	100.0	137,000	100.0	+ 12,081	109.7%	66,400	100.0	105.4%
製品	97,419	78.0	102,600	74.9	+ 5,180	105.3%	51,000	76.8	104.2%
商品	27,499	22.0	34,400	25.1	+ 6,900	125.1%	15,400	23.2	109.4%
【営業利益】	11,892	9.5	13,200	9.6	+ 1,307	111.0%	6,440	9.7	110.2%
【経常利益】	12,220	9.8	13,500	9.9	+ 1,279	110.5%	6,600	9.9	109.8%
【税引前利益】	11,953	9.6	13,300	9.7	+ 1,346	111.3%	6,500	9.8	110.3%
【当期利益】	7,114	5.7	7,940	5.8	+ 825	111.6%	3,880	5.8	111.5%

M&A : '10年4月 消耗品・包装資材に強みを持つ ユカ商事(株)より事業を譲受、商品購入とその取扱を強化
'10年6月 フィルムメーカーである(株)アルライトをグループに加え、製品開発力の更なる強化を図る

販売面 : 既存マーケットでのシェア拡大と、用途開発による新規マーケットへの進出を図る
当社グループの物流ネットワークを最大限に生かし、商品取扱量の増加を図る

技術面 : 最新鋭の設備導入と更新を行い、製品の軽量化、素材切替、新機能開発、新素材開発など、技術革新を推し進める

生産面 : 生産性および品質の向上に取り組み、需要拡大に対応した生産能力の拡大と生産拠点の最適化

物流面 : 5月 新福山ピッキングセンター、来春 新中部ピッキングセンターの稼働予定
物流ネットワークの更なる整備により、流通全体でのトータルコスト削減と品質向上を図り、ピッキング需要の拡大に備える

環境面 : 発泡スチロール製食品用トレーの自主的な回収に加え、新たに展開した透明容器の自主的な回収を加速し、さらなる循環型社会の形成に努める

設備投資・研究開発費計画 (2011年3月期)



	10/3月期		11/3月期			
	実績	計画	増減	前年比	中間期計画	前年比
設備投資	10,071	12,550	+ 2,478	124.6%	7,750	184.6%
有形固定資産	9,658	12,130	+ 2,471	125.6%	7,480	187.3%
内、土地	1,416	210	1,206		210	
無形固定資産	413	420	+ 6	101.6%	270	132.2%
減価償却費	8,461	9,140	+ 678	108.0%	4,300	
研究開発費	1,035	950	85	91.7%	480	95.3%

設備投資には、リース調達を含む投資額を表示しております。

主な設備投資

リサイクル	中部リサイクル工場リニューアル	885	百万円
	回収容器選別工場	1,210	(土地 210百万円を含む)
	PETメカニカルリサイクルプラント	1,027	(投資総額 1,320百万円) '10/11稼働予定
ピッキングセンター	新福山	911	(投資総額 1,800百万円) '10/5稼働予定
	新中部	1,020	(投資総額 2,350百万円) '11/5稼働予定
金型		1,450	
IT投資		560	

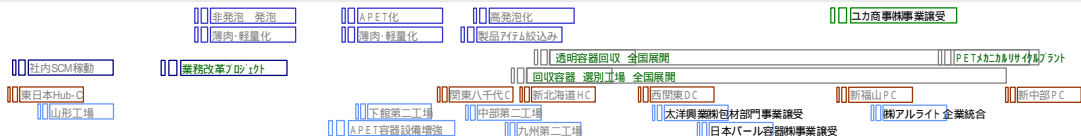
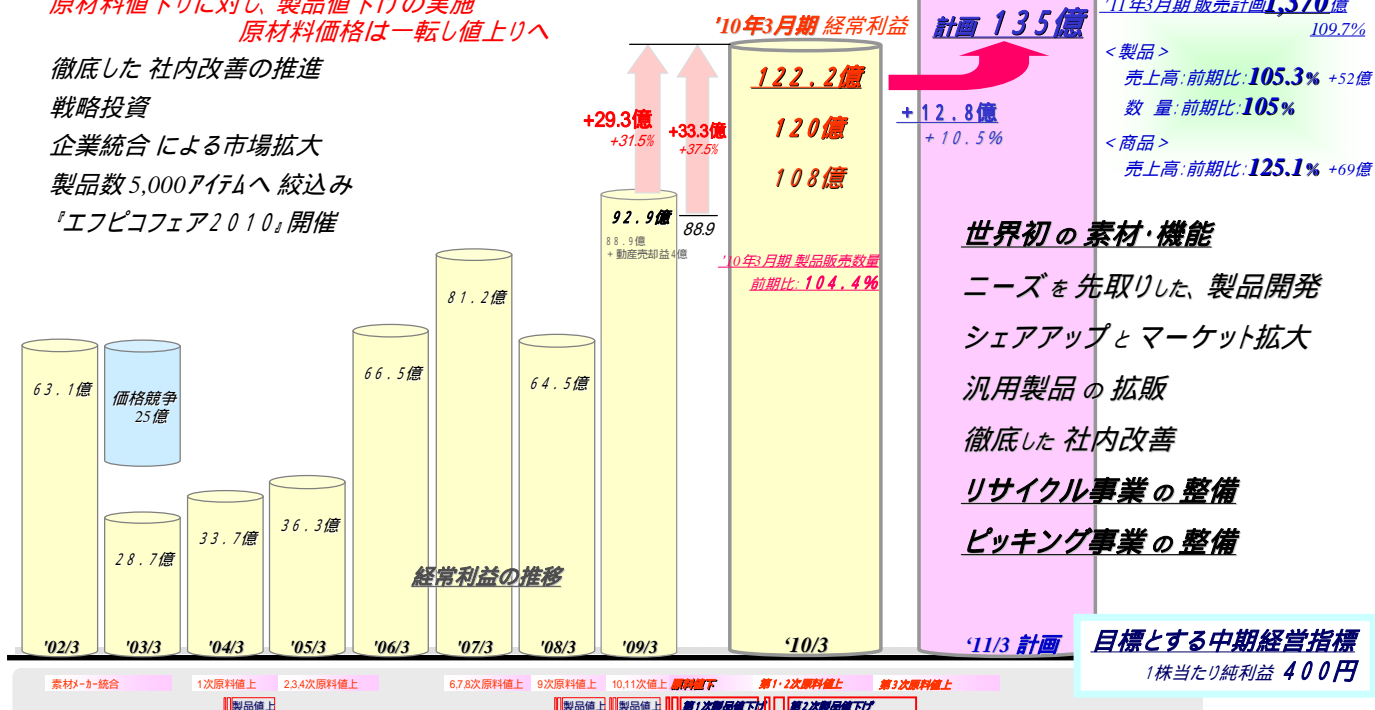
業績状況報告

代表取締役会長
小松 安弘

連結決算のポイントと今後の見通し

原材料値下りに対し、製品値下げの実施
原材料価格は一転し値上りへ

徹底した社内改善の推進
戦略投資
企業統合による市場拡大
製品数 5,000アイテムへ絞込み
『エフピコフェア2010』開催



2010年3月期 経常利益 増減要因

単位:億円

ご参考



原材料動向

大きく値上りした原材料価格は、'09年3月期 第4四半期から値下り、しかしながら、'10年3月期 第2四半期より、値上りに転じる。

製品値下げ

原材料値下りに対し、製品価格の値下げを実施。
・製品値上をおこなった製品の値下げ
・原材料値下り分を製品価格へ還元

1・2次原料値上り

'10年3月期 第2四半期より、原材料は値上りに転じる。

製品販売数量: 前期比 1.04.4%

素材切替・軽量化

・あらゆる製品で軽量化の実施。
・PSからAPET・PPへの切替が進む。

生産改善

・改善施策の進捗に加え数量増効果

物流改善

・改善施策の進捗が順調

製品アイテム絞込み

'08年9月末 8,500アイテムから
'10年2月末 5,000アイテムへの絞込みを実施

'エフビコフェア2010'開催

・12,500人の来場
・600アイテムの新製品を上市

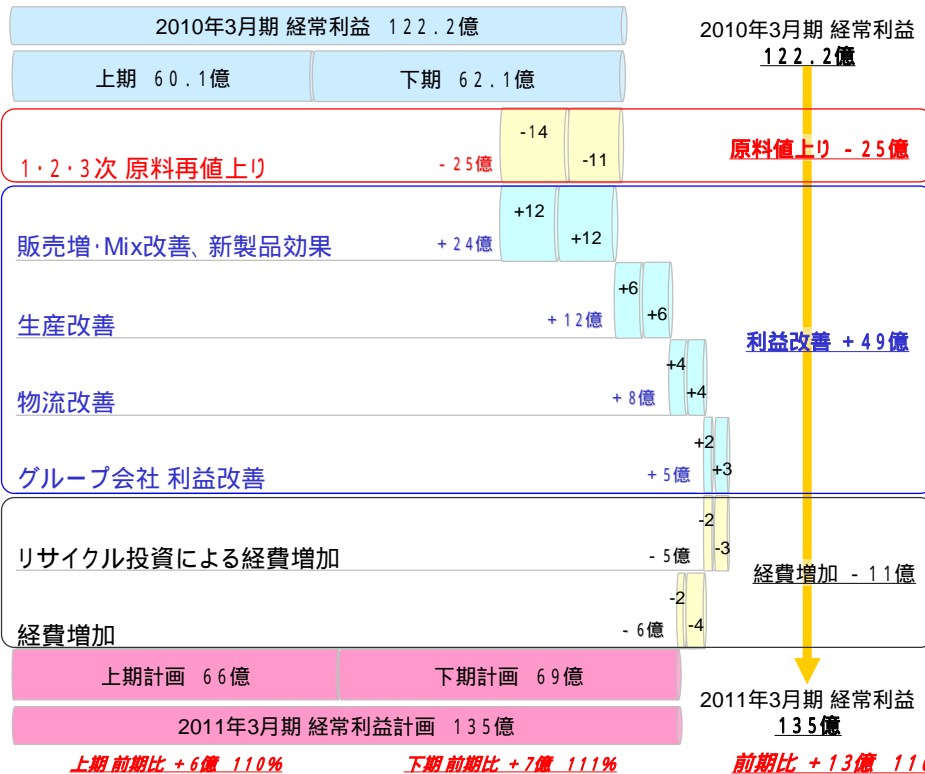
前期比 +29.3億 131.5%
(+33.3億 137.5% 美術品除く)
期初計画比 +14.2億

FP Corporation - 17 -

2011年3月期 経常利益 計画

単位:億円

ご参考



原材料動向

大きく値上りした原材料価格は、'09年3月期 第4四半期から値下り、しかしながら、'10年3月期 第2四半期より、値上りに転じる。

製品販売数量: 前期比 1.05% 計画

素材切替・軽量化

・あらゆる製品、素材で軽量化
・PSからAPET・PPへの切替

新製品

・新耐寒耐熱容器
・漏れにくい容器、内容物がズレにくい容器
・新デザイン容器

生産改善

・改善施策の進捗に加え数量増効果

物流改善

・改善施策の推進

リサイクル投資

・回収容器選別工場の全国展開
・リサイクル洗浄ライン更新
・APETメカニカルリサイクルブランド稼動 '10/11

・リサイクルペレットの品質向上
・APET容器の循環型リサイクルの実現

'11年3月期 販売計画 **1,370億**
109.7%

<製品>
売上高: 前期比 **105.3%** +52億
数量: 前期比 **105%**

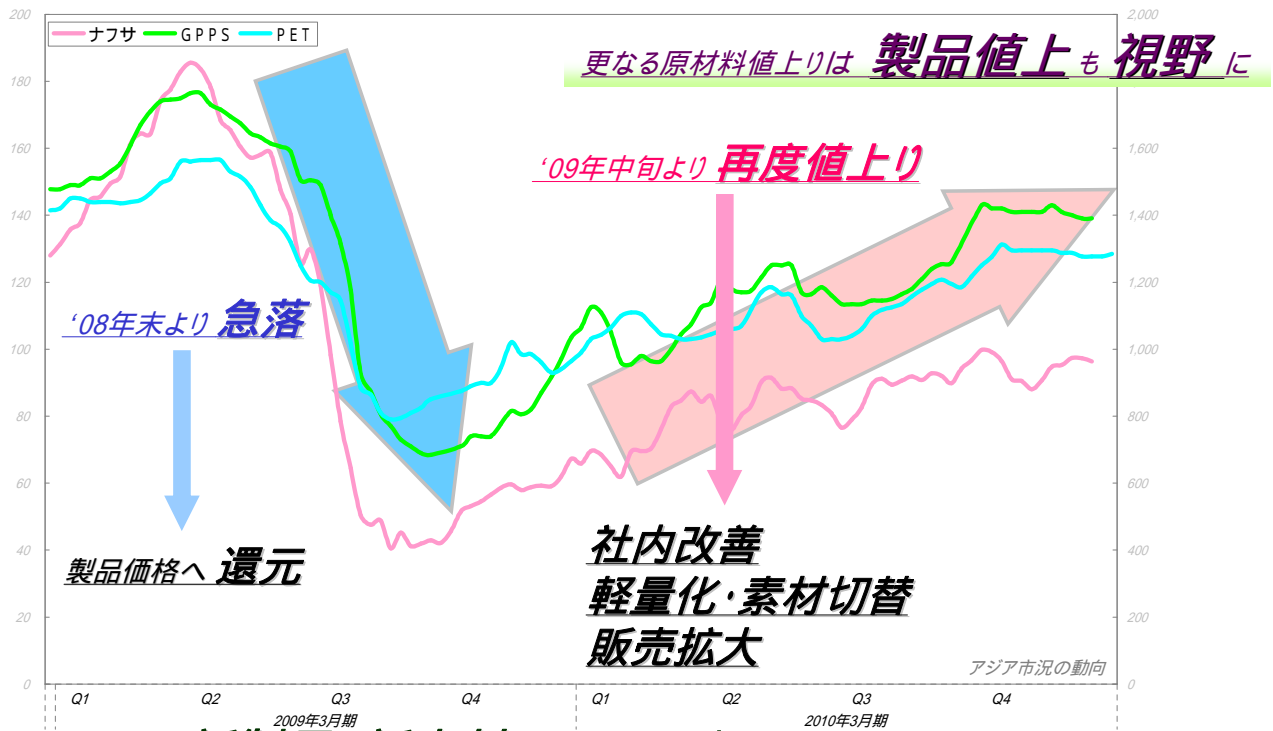
<商品>
売上高: 前期比 **125.1%** +69億

上期前期比 +6億 110%

下期前期比 +7億 111%

前期比 +13億 110.5%

FP Corporation - 18 -



新製品・新素材へのシフト
 トップユーザとしてグローバルな資材調達

製品戦略 新素材 + 新機能

新素材

- マルチFP (MFP) : -40 ~ +110、発泡PS容器
- スーパークリアスター (SCS) : -40 ~ +110、高い透明性の透明容器
- 一軸延伸PET容器: 耐熱70 + 軽量化
- 二軸延伸PET容器: 耐熱80 + 軽量化

『エフピコフェア2010』にて
 新たに600アイテムを上市

高付加価値・機能

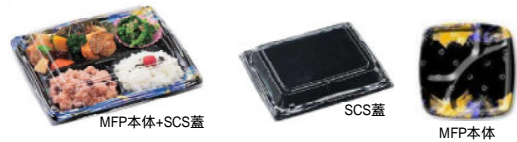
- スクリータイプ容器 (漏れにくい)
- 漏れにくい容器: APET, PP
- 内容物がずれにくい容器
- 新デザイン容器



スクリータイプ



ズレにくい



MFP本体+SCS蓋

SCS蓋

MFP本体

既存マーケットでのシェア拡大
 新規マーケットの獲得

新規マーケットへ向けて

- 農産品用容器・軟包装 (フィルム)
- 食品加工メーカー用容器

素材切替・軽量化

- 透明容器素材シフト: OPS APET, PP, SCS
- PSP発泡容器の軽量化: 低発泡 高発泡
- 新ハイスター: 従来1.8倍 3.5倍発泡による軽量化PP容器

汎用製品シェア拡大

- 超軽量ロースタックトレー: FLB, IJFLB
- 嵌合フードパック: AP-SA, OPS-SA, PP-SA
- フードパック: FP7-D (OPS)
- 透明トレー: AP-FC



汎用トレー



フードパック



透明トレー



嵌合フードパック

アイテムの集約

'10年2月末 5,000アイテムへの絞込みを実施 6,200アイテム('09年3月末) 8,500アイテム('08年9月末)

国内食品マーケット



得意分野での更なる優位性の確立

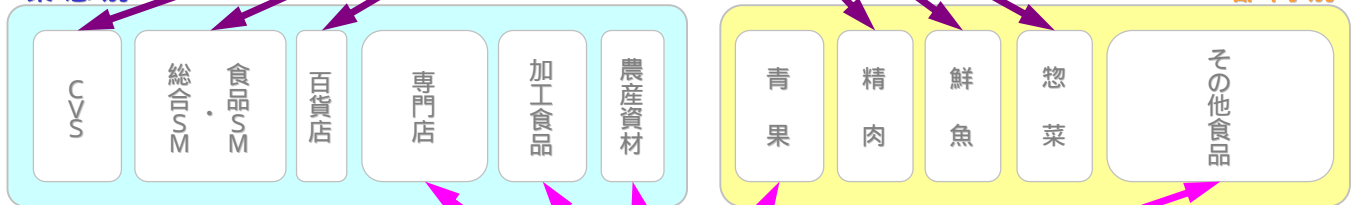
価格競争力 + 品質・機能



既存マーケットでのシェアアップ

業態別

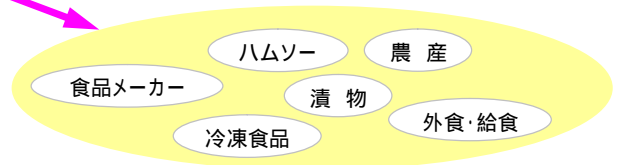
部門別



新規マーケットの開拓

新素材 + 新機能

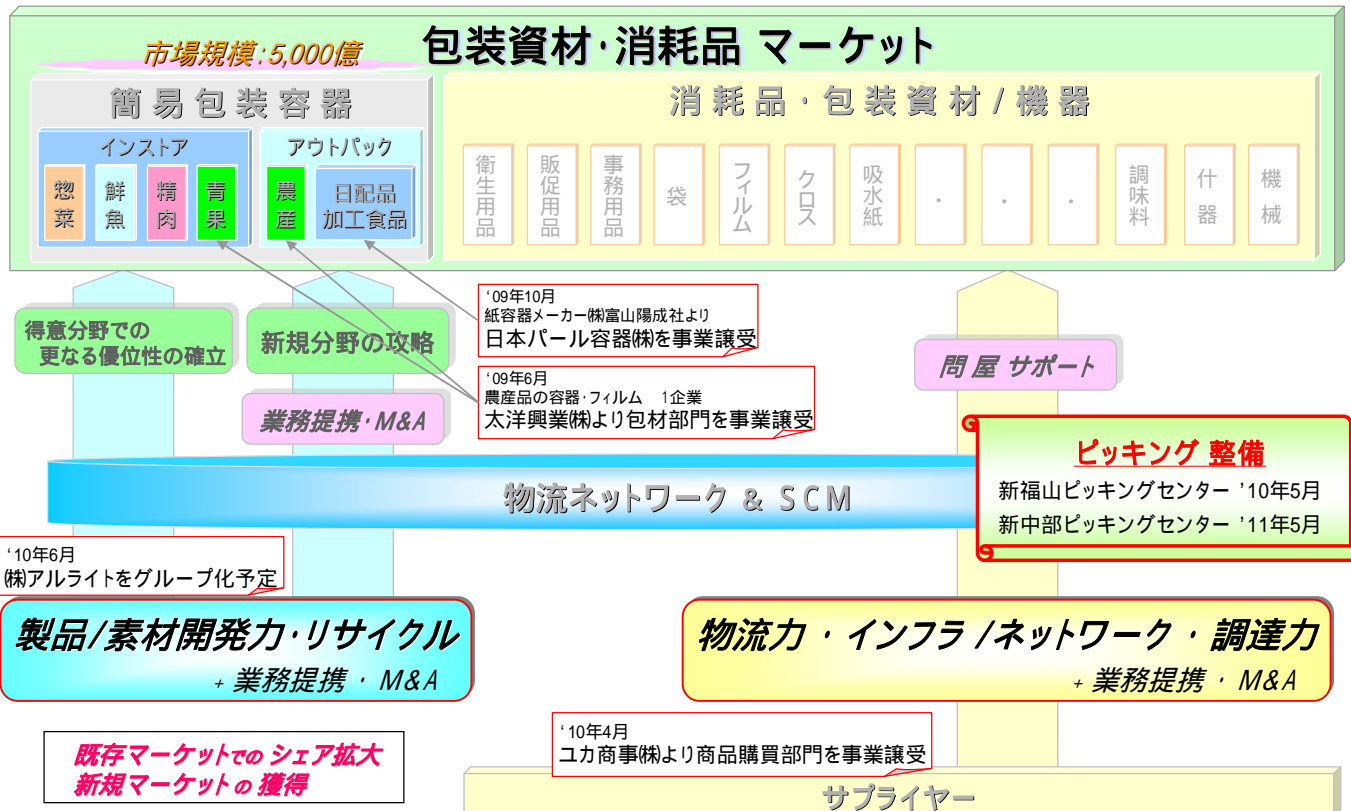
新規マーケットへ向けた製品開発



企業規模拡大へ



市場規模: 2兆円超



容器回収とリサイクル 最大のリスクに備える



回収容器選別工場の全国展開
 リサイクル工場の統合
 リサイクル工場洗浄工程を高機能ラインへ更新
 リサイクルコスト削減と更なるベレット品質向上



回収選別拠点の全国展開と リサイクルセンターの再構築が今期完了

7,900の回収拠点から、7,500トンの使用済み容器を回収し、
 149億円のリサイクル容器を販売 '10年3月期実績

'10年3月末

発泡PS容器回収拠点	7,899拠点
年間回収量	7,095トン
透明容器回収拠点	1,495拠点
年間回収量	426トン

社会貢献と企業活動

障害者雇用支援事業 ~全国に広がる障害者雇用の場~

エフビコグループ障がい者雇用率: 8.49% ('09.6.1報告ベース)

容器成型事業 3ヶ所



容器組立・二次加工事業 9ヶ所



リサイクル選別事業 9ヶ所



'11年3月期には新たに92名の雇用増を計画

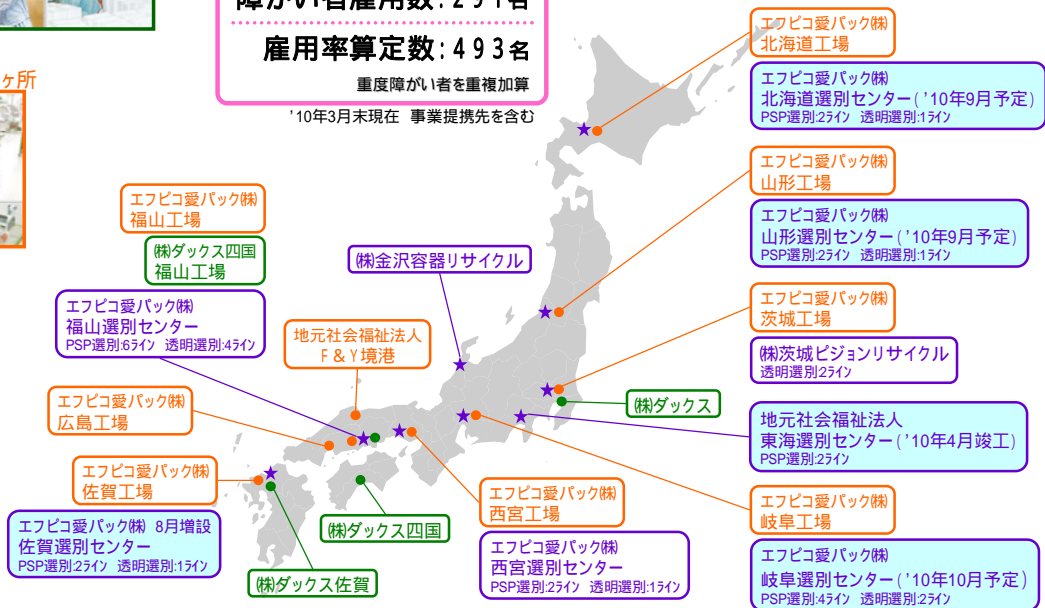
障がい者雇用数: 291名

雇用率算定数: 493名

重度障がい者を重複加算

'10年3月末現在 事業提携先を含む

選別ライン	'10年3月末	'11年3月末計画
PSP選別	17	24
透明選別	9	13



経済的・環境的・社会的側面での、企業価値の拡大を目指す

主な設備投資 物流・リサイクル拠点の強化



新福山ピッキングセンター

‘10年6月より本格稼働 2層 約7,500坪
既存棟と連結し、ピッキング能力が1.5倍に拡充
年間110億円規模のピッキング出荷が可能に

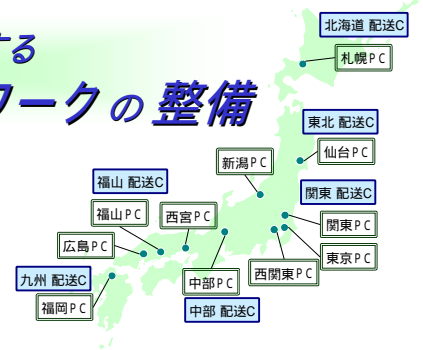


新中部ピッキングセンター

‘11年5月稼働予定
中部・東海エリアのピッキング機能を強化

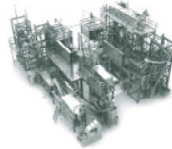


全国を網羅する 物流ネットワークの整備



PETメカニカルリサイクルプラント 導入

‘10年11月 中部にて稼働予定
PETトレートトレ 実現に向け研究・開発中



中部リサイクル工場 リニューアル

‘10年10月 稼働予定、リサイクル機能を強化

回収選別拠点の全国展開と リサイクルセンターの再構築



回収容器選別工場の全国展開 (6センターから9センターへ)

年間 透明: 1,200トン、PSP: 8,400トンの選別が可能に

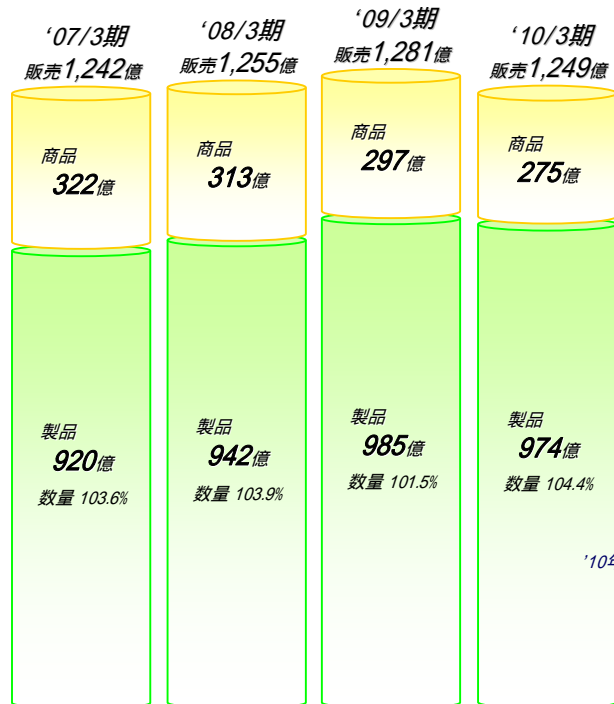
リサイクル工場 洗浄設備を高機能ラインへ更新

水洗浄を温水+洗剤洗浄へ更新し、更なるベレット品質向上



企業規模 拡大へ 向けて

社内改善 + 規模拡大に大きくシフト



商品取扱・調達力の強化
流通コスト削減 提案
+ M & A による 規模拡大

ニーズを先取りした 製品開発
シェアアップと新規マーケット獲得
汎用製品の 拡販
エコトレの 拡販

+ 世界初の 素材・機能
+ M & A による 規模拡大

‘11/3期
販売計画 1,370億
+ 12.1億、109.7%

商品販売計画
344億
+ 6.9億、125.1%

製品販売計画
1,026億
+ 5.2億、105.3%
数量計画 105%

‘10年3月: 「エフピコフェア2010」開催

‘10年6月: 新福山ピッキングセンター本格稼働

‘10年9月: 回収選別拠点 全国展開完了

‘10年10月: 新中部リサイクルセンター稼働 > リサイクルセンター再構築完了

‘10年11月: APETメカニカルリサイクルプラントを中部にて稼働

‘11年5月: 新中部ピッキングセンター稼働

企業基盤の強化

代表取締役社長
佐藤 守正

メーカーとして基本3本柱を徹底的に追求

もっとも高品質な製品を

どこよりも競争力のある価格で

高品質

価格競争力

精度向上と情報共有

物流力

必要な時に確実にお届けする

企業基盤をより強固に

企業価値と競争力を高める

原材料価格変動の影響



単位: 億円

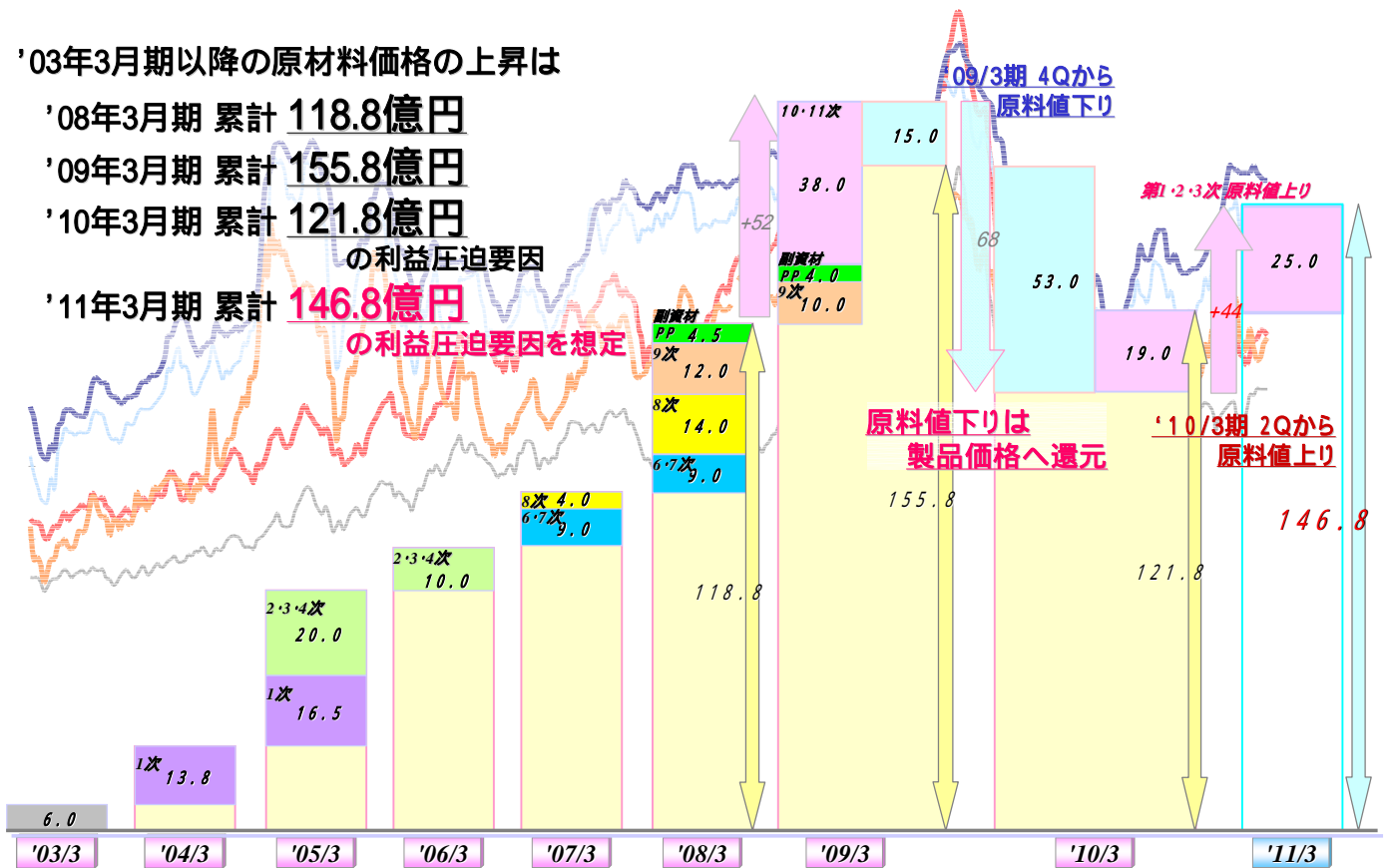
'03年3月期以降の原材料価格の上昇は

'08年3月期 累計 **118.8億円**

'09年3月期 累計 **155.8億円**

'10年3月期 累計 **121.8億円**

'11年3月期 累計 **146.8億円**



FP Corporation - 29 -

社内改善施策



単位: 億円

薄肉・軽量化、素材切替

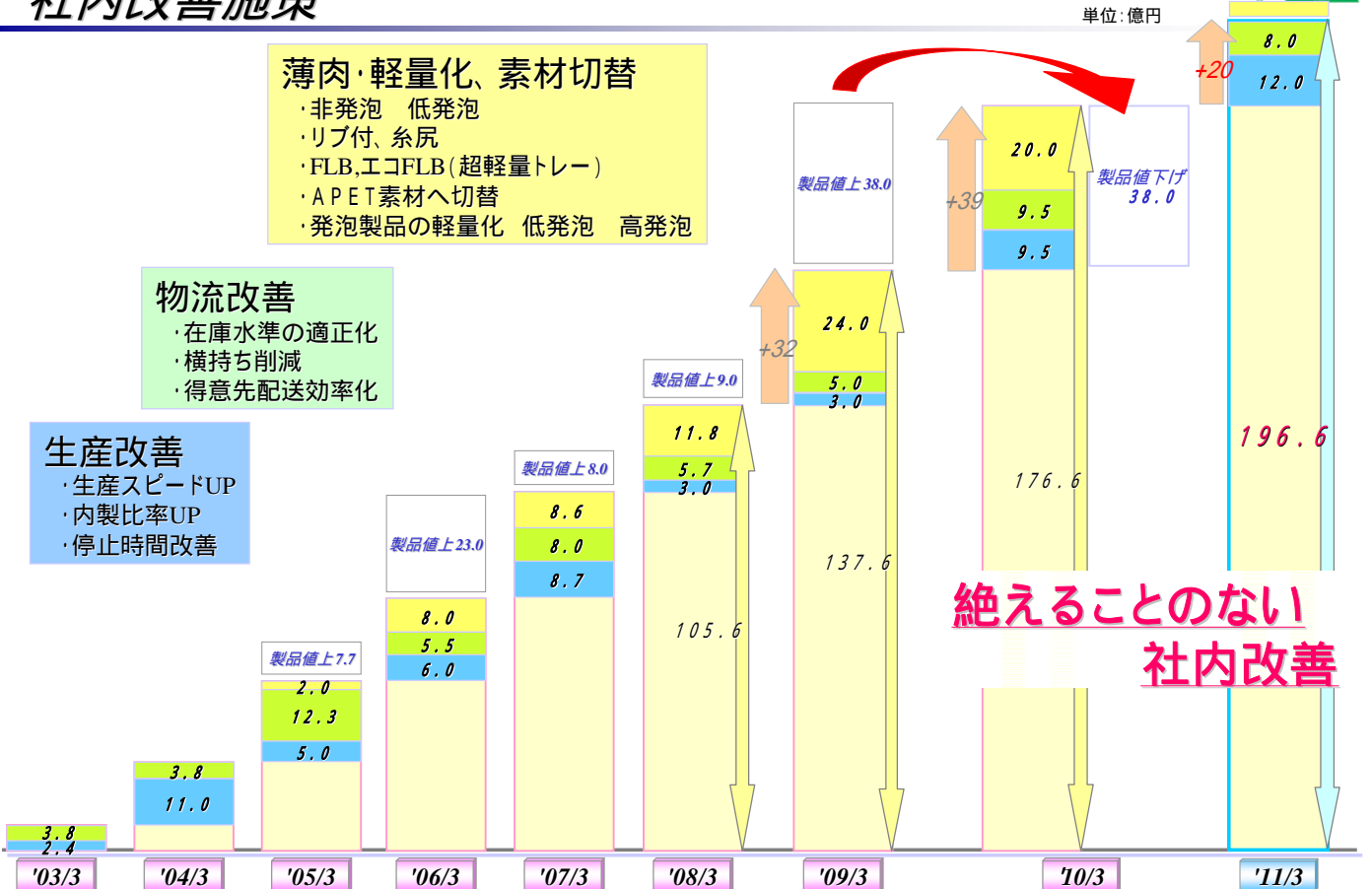
- ・非発泡 低発泡
- ・リップ付、糸尻
- ・FLB,エコFLB (超軽量トレー)
- ・A PET素材へ切替
- ・発泡製品の軽量化 低発泡 高発泡

物流改善

- ・在庫水準の適正化
- ・横持ち削減
- ・得意先配送効率化

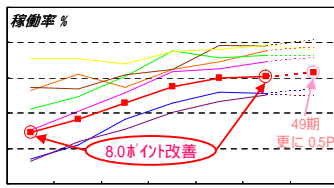
生産改善

- ・生産スピードUP
- ・内製比率UP
- ・停止時間改善

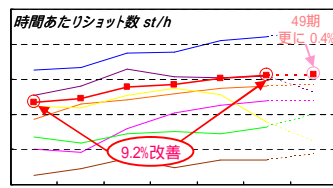


FP Corporation - 30 -

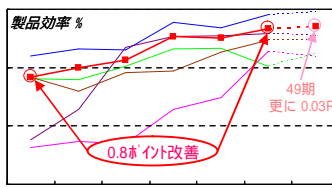
生産性アップと品質向上



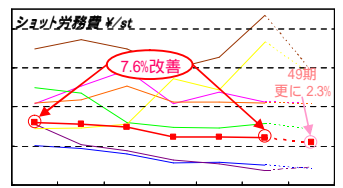
1. 段取時間の短縮
2. トラブル調整停止時間の削減



1. 製品別ベストサイクルへの挑戦
2. 生産設備の更新・改造を計画的に行う



1. トラブル調整停止時間の削減
2. ラミ機スタート時ロスの削減



1. 最適な人員配置の検討
2. 残業時間の削減

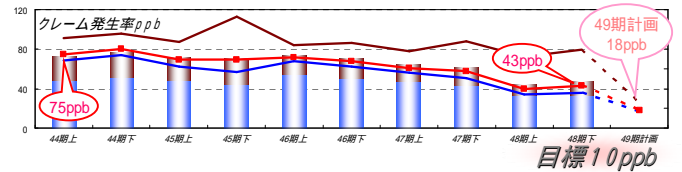
これら改善による、2010年3月期における見なし効果は、およそ **8億9千万円**

(技能塾)

「人づくりのための教育プログラム」

優秀な技能の継承
能力の開発・向上

‘09年3月期 49名 卒業
‘10年3月期 48名 卒業
‘11年3月期 上期 24名 入塾



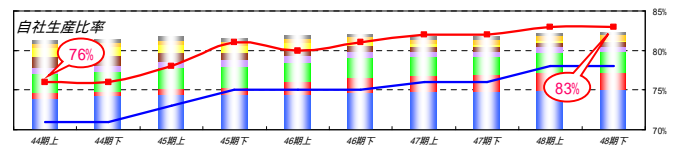
(モノづくり革新プロジェクト)

「速さと正確さ」の追求

5Sをベースに、無駄・ロスの見える化
問題意識の共有

作業標準の見直し・改定による高位標準化

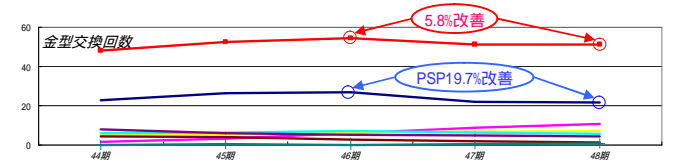
半期に一度の発表報告会を継続



(製品アイテム数の絞込み)

‘10年2月末 **5,000アイテム** への絞込みを実施

6,200アイテム(‘09年3月末) 8,500アイテム(‘08年9月末)



技術 + 素材



価格 + 品質 + 機能、トータルで競争力のある製品作り

素材 + シート + フィルム + 金型 + 成型、総合技術で、更なるコスト削減
更なる機能アップ

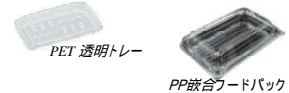
漏れにくい容器

スクリータイプ
PP容器、APET容器



新耐熱容器

PET、一軸延伸：耐熱 70 + 強度アップで軽量化
PET、二軸延伸：耐熱 80 + 強度アップで軽量化
PP透明：耐熱 110
新ハイスター(HS)：耐熱 110 + 発泡倍率アップで軽量化PP容器



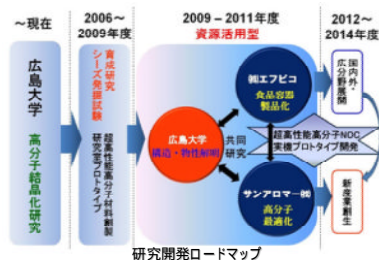
新耐寒耐熱容器

マルチFP(MFP)：-40 ~ +110 耐寒耐熱発泡PS容器
スーパークリアスター(SCS)：-40 ~ +110、高い透明性の透明容器

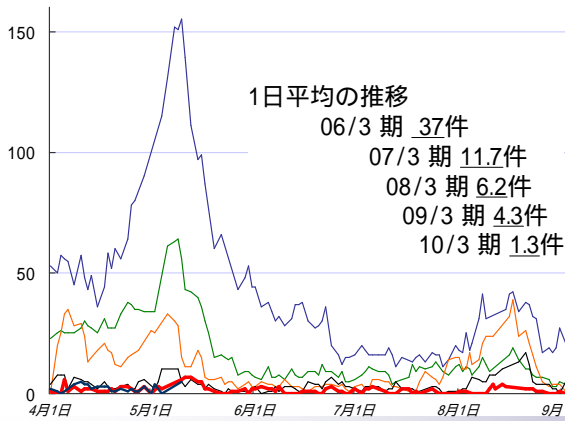
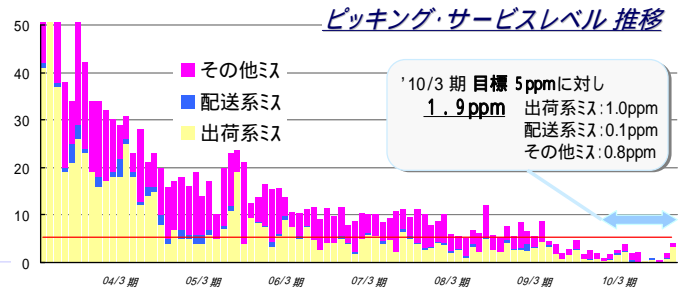
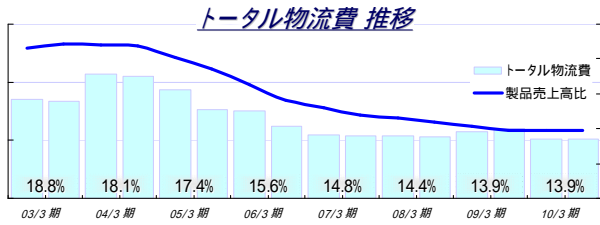
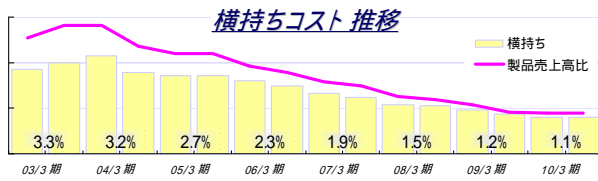
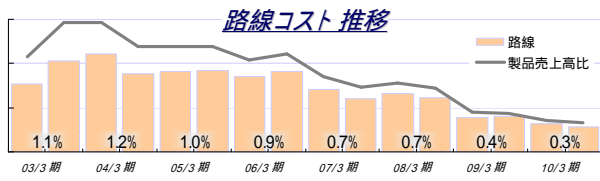


新汎用プラスチック開発への参画

ポリプロピレン結晶化度ほぼ100%
比強度は鋼鉄の2~5倍、耐熱+176
透明性はガラス並
従来の成型法の延長線上で成型可能
リサイクル可能



物流コスト削減と品質向上



全国を網羅するエフピコの物流ネットワーク



全国6拠点(10万3千坪)の配送センターと
 全国11拠点(2万8千坪)のピッキングセンターから
新中部ピッキング稼働時

高品質で効率的な物流サービスを提供

'10年5月新福山ピッキングセンター稼働



ピッキング事業 取扱状況

- 取扱アイテム: 45,000アイテム
- 出荷数量: 400万本/月
- 出荷先数: 220社、6,000ヶ所
- 配送精度: 4ppm (4/100万)

'11年5月 新中部ピッキングセンター稼働予定



グループ経営



生産 連結会社

- (株)エフピコ北海道
- (株)エフピコ仙台
- (株)エフピコ山形
- (株)エフピコ茨城
- (株)エフピコ下館
- (株)エフピコ中部
- (株)エフピコ笠岡
- (株)エフピコエンジニアリング
- (株)エフピコ神辺
- (株)エフピコ福山
- (株)エフピコ箕島
- (株)エフピコ佐賀
- テイカ精密(株)
- エフピコ日本パール(株)
- (株)アルライト (予定)

生産委託 会社

- 障がい者就労会社
- (株)ダックス
- (株)ダックス四国
- (株)ダックス佐賀
- (株)ノダヤ
- エフピコ愛バック(株)
- (株)茨城ビジョンリサイクル

日本全国 5,000万世帯の食卓へ、
年間 974億円の商品と
275億円の商品を、
11万台のトラックで供給し、
7,500トンの容器を回収

(株)エフピコ

販売・購買 連結会社

- エフピコチューバ(株)
- エフピコ商事(株)
- (株)エフピコモダンパック
- 資材メーカー
- 包装資材問屋

物流 連結会社

- エフピコ物流(株)
- (株)アイ・ロジック
- エクセル物流(株)
- エフピコピッキング(株)
- エフピコ中部物流(株)
- エフピコ関東ピッキング(株)
- エフピコ九州物流(株)

物流委託 会社

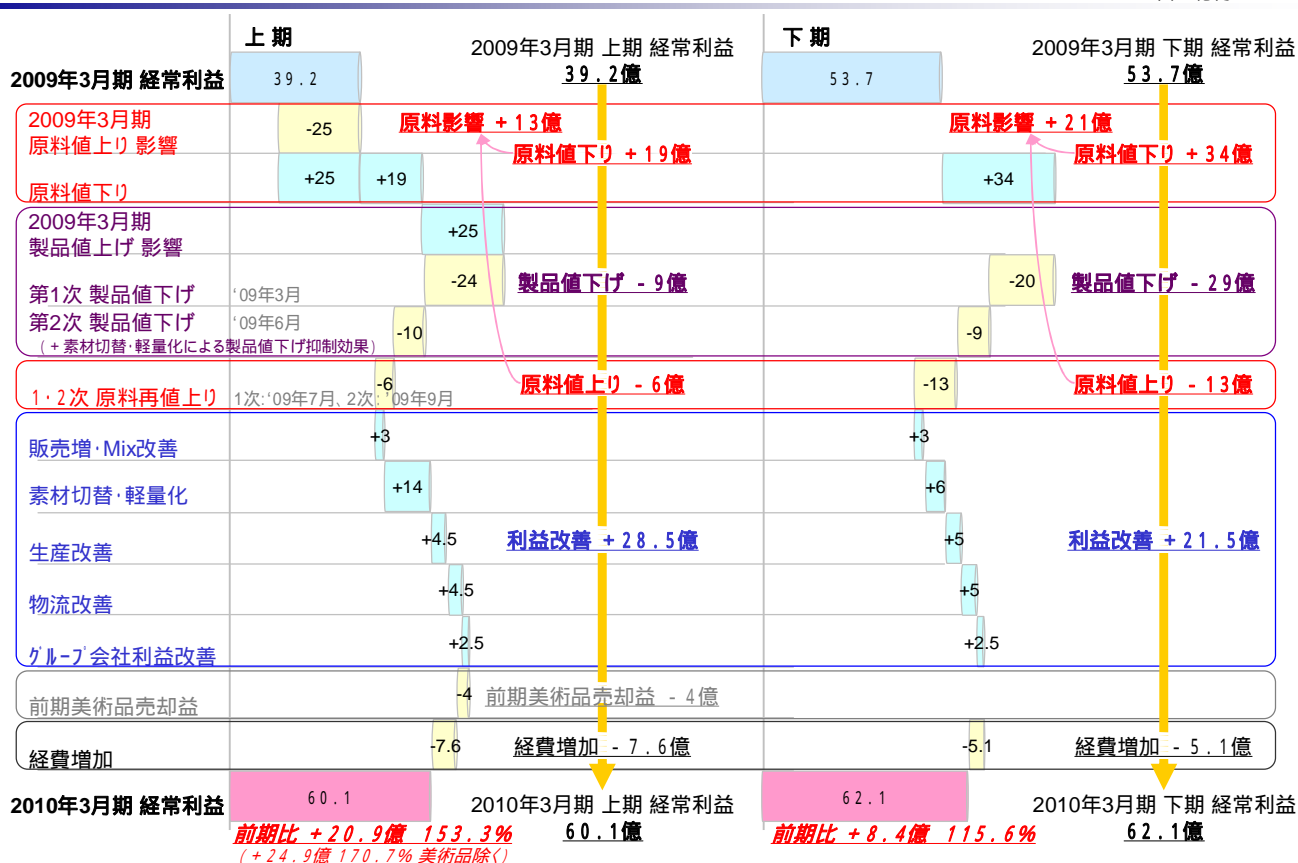


グループの総力を結集し、
企業規模と企業価値の拡大を図る

添付資料

2010年3月期 経常利益 増減要因 実績

単位：億円



2010年3月期 経常利益増減要因 修正計画

2009年11月5日

単位: 億円



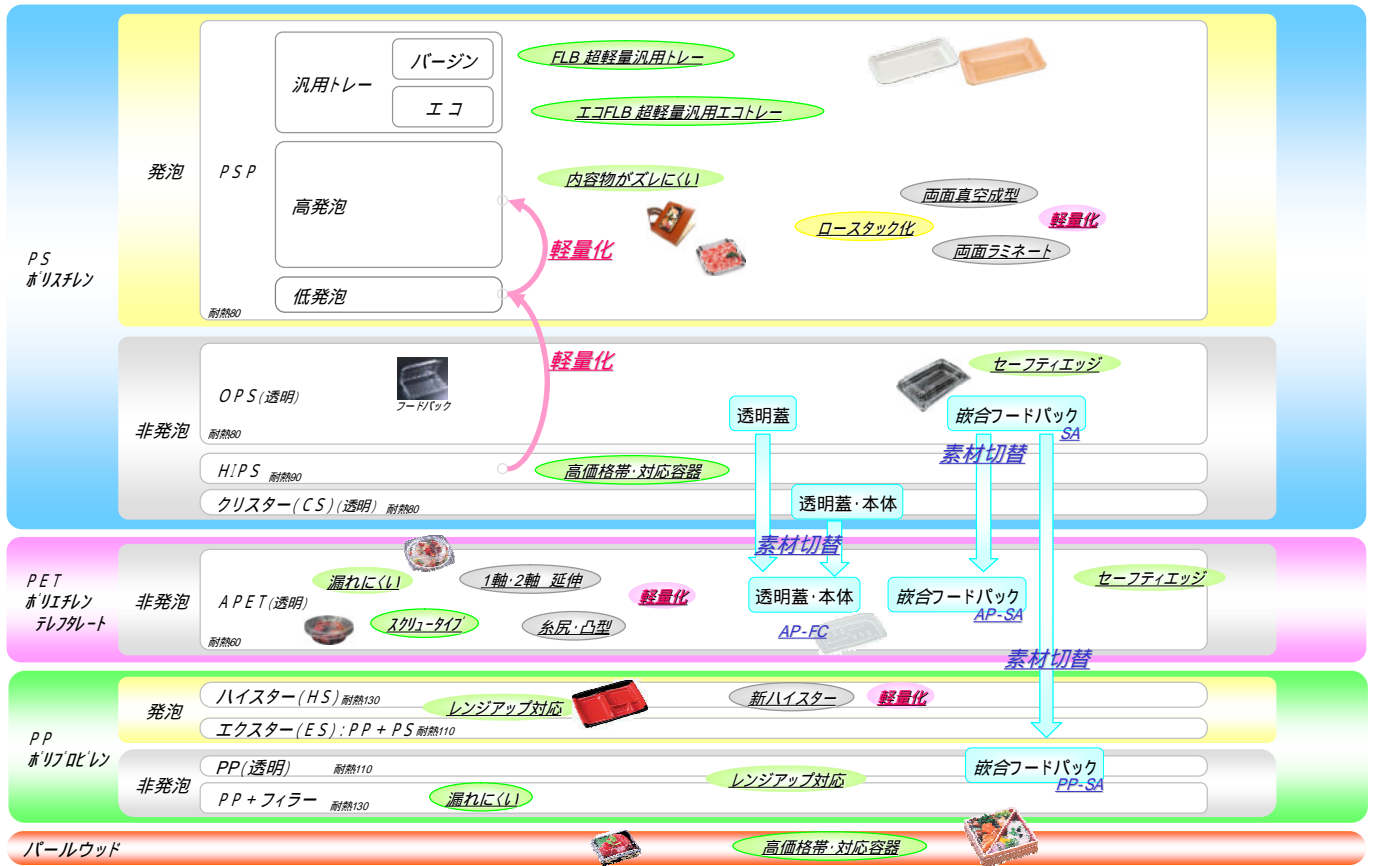
2010年3月期 経常利益増減要因 期初計画

2009年5月11日

単位: 億円



素材別 製品構成



設備投資・研究開発費



	山形工場				下館第二工場		中部第二工場		九州第二工場		関東新工場		北海道工場		PPF				
生産	東洋興業 日本ハル容器 アルミイト ウッド工場 フードバック設備 北海道工場増設 透明容器設備の強化																		
物流	東日本ハブセンター				関東八千代C		新北海道HC		新福山PC		新中部PC		日立化成 土地・建物						
リサイクル	九州HC				北海道HC		中部・東北・九州		透明容器回収・容器選別工場		洗浄ライン刷新		中部リサイクル工場		中部 PETリサイクル				
その他					東海HC		福山本社事務所		福山地区 土地・建物		中部地区 土地・建物		功商事						
設備投資	有形	7,096	5,037	2,742	2,394	9,885	10,909	13,007	10,071	12,550	6,138	4,248	2,621	2,156	9,523	10,655	12,166	9,658	12,130
	無形	958	789	120	238	362	254	841	413	420	958	789	120	238	362	254	841	413	420
内 金型	780	460	436	550	771	609	1,892	1,512	1,450	937	800	983	1,440	1,533	1,581	(1,274)	(82)	(0)	(0)
リース調達 金型	937	800	983	1,440	1,533	1,581	(1,274)	(82)	(0)	3,339	4,201	4,134	3,965	4,194	4,742	8,467	8,461	9,140	9,140
						旧基準減価償却		4,785	5,091	6,160									
研究開発	654	628	689	751	895	913	965	1,035	950										

単位: 百万円

03年3月期 04年3月期 05年3月期 06年3月期 07年3月期 08年3月期 09年3月期 10年3月期 11年3月期 計画

>>09年3月期より設備投資には、リース調達を含む投資額を表示しております。

経常利益 増減要因 推移



	41期	42期	43期	44期	45期 '07/3			46期 '08/3			47期 '09/3			48期 '10/3			49期計画 '11/3			
					上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	
前期 経常利益	63.1	28.6	33.6	36.3	32.2	34.3	66.5	43.4	37.8	81.2	32.0	32.5	64.5	39.2	53.7	92.9	60.1	62.1	122.2	
原料値上り影響	-6.0	-13.8	-36.5	-10.0	-1.0	-12.0	-13.0	-19.0	-20.5	-39.5	-14.0	-23.0	-37.0	-25.0	-	-25.0	-	-	-	
														原料値下り	+44.0	+34.0	+78.0	-	-	
製品値上げ 影響	-25.0	+7.7	+29.2		-	+4.0	+4.0	-	+9.0	+9.0	+14.0	+24.0	+38.0	+25.0	-	+25.0	-	-	-	
														第1次 製品値下げ	-24.0	-20.0	-44.0	-	-	
														第2次 製品値下げ	-10.0	-9.0	-19.0	-	-	
														原料再値上り	-6.0	-13.0	-19.0	-14.0	-11.0	-25.0
販売増・Mix改善		+45.0		+17.5	+2.4	+3.4	+5.8	+2.0	+1.0	+3.0	+4.5	+2.5	+7.0	+3.0	+3.0	+6.0	+12.0	+12.0	+24.0	
素材切替・軽量化				+2.0	+8.0	+5.2	+3.4	+8.6	+3.0	+8.8	+11.8	+6.0	+18.5	+24.5	+14.0	+6.0	+20.0			
生産改善	+2.4	-0.6	-2.0	+6.0	+4.9	+3.8	+8.7	+2.0	+1.0	+3.0	+0.5	+2.0	+2.5	+4.5	+5.0	+9.5	+6.0	+6.0	+12.0	
物流改善	+0.3	-14.0	+12.2	+5.5	+4.5	+3.5	+8.0	+2.5	+3.2	+5.7	+1.8	+3.2	+5.0	+4.5	+5.0	+9.5	+4.0	+4.0	+8.0	
グループ会社利益改善														+2.5	+2.5	+5.0	+2.0	+3.0	+5.0	
美術品売却益			+1.0	-1.0							+4.0		+4.0	-4.0	-	-4.0	-	-	-	
経費増加	-6.2	-19.3	-3.2	+4.2	-4.8	-2.6	-7.4	-1.9	-7.8	-9.7	-9.6	-6.0	-15.6	-7.6	-5.1	-12.7	-4.0	-7.0	-11.0	
経常利益	28.6	33.6	36.3	66.5	43.4	37.8	81.2	32.0	32.5	64.5	39.2	53.7	92.9	60.1	62.1	122.2	66	69	135	

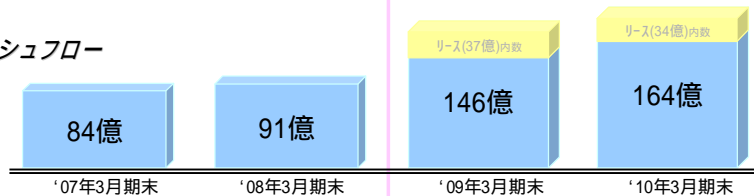
健全な財務体質へ

格付け **BBB +** **A -**



生産・物流の改善・効率化による収益基盤の強化

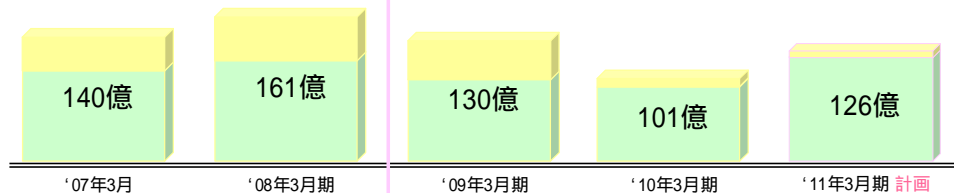
営業キャッシュフロー



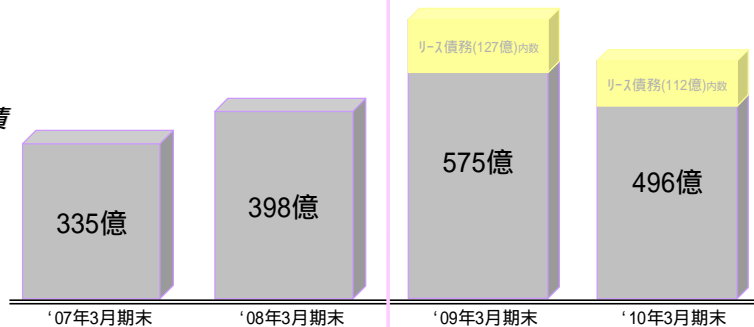
収益力・キャッシュフロー創出力

戦略投資による収益構造の強化

設備投資



有利子負債



資本負債構成の改善

リース会計基準変更